# ①高校生からのおすすめ本

## ＜感動＞～心が震える世界へ～

※出版社は複数あるものもあります。

| 番号 | 書名 | 著者名 | 出版社名 | キーワード | 学校名 | 学年 | 紹介メッセージ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 図書館戦争 | 有川　浩 | KADOKAWA | 自由 | 玉野光南 | 3 | この本は、表現の自由が規制された日本で、本を守るために戦う人達の物語です。ただ、物語のメインは戦闘のシーンではなく恋愛です。本と本を読む自由を守る中で描かれている登場人物達の心情の変化や成長がとても甘酸っぱいです。この本は映画化されており知っておられる方も多いと思いますが、原作でしか分からないことも多いので読むことをオススメします。 |
| 2 | 君の膵臓をたべたい | 住野　よる | 双葉社 | 生きる | 総社 | 3 | 表題をみた友人が放った第一声は、「グロい」。しかし、この表題に躊躇してしまうのは勿体ない！クラスの人気者の秘密を知ってしまったことから始まる奇妙な関係。軽快な会話のテンポ。その中にすっと斬り込まれる「生」の問いに胸を突かれます。そして、物語の終幕で明かされる表題の真意は、「感動した」などという言葉ではとても足りません。ただただ純粋に「読んで良かった」と思える作品です。 |
| 3 | 博士の愛した数式 | 小川　洋子 | 新潮社 | 感動 | 倉敷天城 | 1 | 記憶が80分しかもたない博士とその家政婦の物語です。そこに家政婦の息子も加わり、その3人で過ごす日々が驚きと歓びに満ちたものに変わっていきます。とても温かい物語です。読んでみてください。 |
| 4 | 永遠の0（ゼロ） | 百田　尚樹 | 講談社 | 家族 | 倉敷天城 | 1 | 映画やドラマでも話題になった本です。第二次世界大戦の時、多くの命が失われた神風特攻隊の隊員の生き様をもとに家族の愛、仲間の絆、命の大切さなど心の中に深く教えてくれます。心に響く物語をぜひ読んでください。 |
| 5 | アルジャーノンに花束を | ダニエル・キイス | 早川書房 | いつでも純粋な心を | 倉敷商業 | 3 | この本は、知的障がい者である主人公が、天才科学者と出会い、被験者第1号となり頭の良くなる手術をしてもらう物語です。天才へと変貌した彼は、言葉の裏を考えるようになってしまい、人を愛する気持ち、人を信じる気持ちを失ってしまいます。そんな彼が、大切な友人、大好きな彼女によって再び素直な心を取り戻していきます。彼がゆっくりと確実に周りの手を借りながら取り戻していく純粋な心に涙が止まりません。ぜひ読んでみてください。 |
| 6 | ルーズヴェルト・ゲーム | 池井戸 潤 | 講談社 | | 倉敷古城池 | 1 | この本は、かつて順風満帆に会社経営を行っていて、さらに野球部が強かった会社が、社長交代やいろいろな事が起こり、野球部の存続が困難な状態になったのを立て直していく話です。この本の見どころは、とても人情味あふれた場面がたくさんあるところです。僕はこの本から一人の勇気ある行動で、周りの空気が徐々に変わっていき、大きな力になるんだと感じました。 |
| 7 | 舟を編む | 三浦 しをん | 光文社 | 辞書 | 玉野光南 | 3 | 辞書という身近なものを題材にした内容です。辞書を作るのには長い年月がかかり、大変な作業です。言葉の意味の深さについて改めて考えさせられる作品です。 |
| 8 | 十字架 | 重松　清 | 講談社 | いじめ | 玉野光南 | 3 | いじめによって自ら命を絶ってしまった少年、藤井俊介が残した遺書には、自分の親友の名前を綴っていました。しかし、その親友は藤井のことを親友とは思っておらず、綴られたが故に重たい十字架を背負ってしまいます。残された家族の苦しみ、いじめを傍観していたクラスメイトの罪悪感などいろいろな観点から気持ちをくみ取ることができます。いつの間にか、涙がこぼれてしまう感動的な作品です。作者の重松清さんは岡山県出身の方なので、ぜひ読んでほしいです。 |
| 9 | あつあつを召し上がれ | 小川　糸 | 新潮社 | 生活、食事、日常 | 倉敷商業 | 3 | 何気ない日常の記憶の中には、必ず温かい食事が登場します。ぶたばら飯、おみそ汁、きりたんぽ。それを食べたとき、思い出すものは、家族や大切な人の顔。この本を読み終えたとき、大切な人との温かい食事をいただくときの、幸せな気持ちになるはずです。 |
| 10 | 螢の城 | 秋月　達郎 | PHP研究所 | 戦国武将 | 津山 | 2 | 本作の主人公は、戦国時代の近畿の武将、京極高次、きっとこの名前を聞いたことがないかもしれません。しかし、彼が籠もった城こそが天大の大戦・関ヶ原の戦いの勝敗を決めたといっても過言ではありません。だが、本作での彼は武術に秀でているわけでもなく、優れた軍略家でもなかったのです。ただ、彼の強みは、家臣との「信頼」でした。大軍を前に彼と家臣団が一致団結し、戦い抜く姿はきっと胸が熱くなります。 |